

2019, 6月生産より、0058号機 市場機も同じ内容で改修する
主な変更点 サイドブレーキ追加、デフロック位置変更、他

取扱説明書

グリーン目砂散布機

MWX-400HV



株式会社IHIアグリテック

長野県松本市石芝 1-1-1

TEL 0263(88)0200 FAX 0263(27)0380

グリーン目砂散布機をお買い上げ 頂き、ありがとうございます。

この取扱説明書は、グリーン目砂散布機の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。

ご使用前には、必ずこの取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取り扱い頂き、最良の状態でご使用ください。

- ・ お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。
- ・ 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡し下さい。
- ・ なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承下さい。
- ・ ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただきましたお店、またはお近くの特約店・販売店にご相談下さい。
- ・ 通常のご使用で、万一故障・破損等が発生した場合は、その状態のまま販売店にご相談ください。お客様で分解等をなされた場合、保証期間内であっても保証ができない場合があります。



その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- ・ この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「安全に作業するために」を記載してあります。使用前に必ずお読み下さい。
- ・ この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに当社の販売店にご注文下さい。

目 次

1. 安全に作業するために	3
2. 安全銘板の貼り付け位置	10
3. 新車の取扱	11
4. 各装置の取扱	12
5. 始業点検	15
6. 作業要領	17
7. 定期の点検・調整	18
8. ディスクブレーキの取扱	25

1. 安全に作業するために

ここで記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じる恐れがあります。

・ 一般的な注意事項

警告 排ガスには十分に注意する

締め切った屋内などではエンジンを始動しないで下さい。エンジンは、風通しのよい屋外で始動して下さい。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をして下さい。

【守らないと】
排ガスによる中毒を起こし、死亡事故に至る恐れがあります。

警告 こんな時は運転しない

- ・ 過労・病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき
- ・ 酒を飲んでいるとき
- ・ 妊娠しているとき
- ・ 18歳未満の人

警告 作業に適した服装をする

はち巻き、首巻き、腰タオルは禁止です。滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などを付け、だぶつきの無い服装をして下さい。

【守らないと】
機械に巻き込まれたり、滑って転倒する恐れがあります。

警告 機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導して下さい。

【守らないと】
死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねく恐れがあります。

警告 運転者以外に人を乗せない

乗用目砂散布機MWX-400HVの乗車定員は1名です。運転者以外の人を乗せないで下さい。

【守らないと】
思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



注意 マフラの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラは高温ですので、触れないで下さい。

【守らないと】
やけどをする恐れがあります。



注意 機械の改造禁止

純正部品や指定以外のアタッチメントを取り付けしないで下さい。
改造をしないで下さい。

【守らないと】
事故、ケガ、機械の故障をまねく恐れがあります。



注意 点検・整備をおこなう

機械を使う前と後には必ず点検・整備をして下さい。特に、ハンドル・ブレーキ・レバーなどの操縦装置及び車輪などの走行装置は、確実に作動するように点検・整備して下さい。

【守らないと】
事故、ケガ、機械の故障をまねく恐れがあります。

- 作業前後の確認時、格納時の注意事項



警告 注油、給油はエンジンが冷めてからおこなう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油、給油しないで下さい。

【守らないと】
燃料などに引火して、火災をおこす恐れがあります。



警告 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は絶対にしないで下さい。

【守らないと】
燃料などに引火して、火災をおこす恐れがあります。



警告 バッテリー点検時は火気厳禁

バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリーに引火、爆発して火傷などを引き起こす恐れがあります。



警告 バッテリー液は体に付けないようにする

バッテリー液を身体や服に付けないようにして下さい。万一付着したときはすぐに水で洗い流して下さい。

【守らないと】

火傷したり、服が破れる恐れがあります。



警告 燃料漏れに注意

燃料パイプが破損していると、燃料漏れを起こしますので必ず点検して下さい。

【守らないと】

火災事故を引き起こす恐れがあります。



警告 燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいに拭き取って下さい。

【守らないと】

火災事故を引き起こす恐れがあります。



警告 点検整備は平坦で安定した場所でおこなう

機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、前輪には車止めをして点検整備をして下さい。

【守らないと】

機械が転倒すると、思わぬ事故をまねく恐れがあります。



警告 マフラ・エンジン回りのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺部に、刈り草・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検して下さい。

【守らないと】

火災事故を引き起こす恐れがあります。



警告 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検して下さい。

【守らないと】

ショートして、火災事故を引き起こす恐れがあります。



警告 ブレーキ・ハンドルの点検を必ずおこなう

ブレーキの効きが悪かったり、片効きが無いように、またハンドルに著しいガタや遊びが無いように、点検して下さい。

【守らないと】

事故を引き起こす恐れがあります。



注意 バッテリーの取付取り外しは正しい手順でおこなう

バッテリーを取り付けるときは+側を先に付け、取り外すときは-側から取り外します。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故を引き起こす恐れがあります。



注意 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または掃除をするときは、必ずエンジンを停止して下さい。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



注意 カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は必ず取り付けて下さい。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



注意 点検整備は過熱部分が充分冷めてからおこなう

マフラーはエンジンなどの過熱部分が充分に冷めてから点検整備をして下さい。

【守らないと】

火傷をする恐れがあります。



注意 目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を正しく使用して下さい。また点検に必要な工具は目砂散布機に常備しておいて下さい。

【守らないと】

整備不良で事故を引き起こす恐れがあります。

・ 作業機に関する注意事項



警告 機械の下にもぐったり、足を入れない

目砂散布機下にもぐったり、足を踏み込んだりしないで下さい。

【守らないと】

傷害事故を負う恐れがあります。



警告 強度・長さ・幅の充分あるあゆみ板を使う

積み込み、積み降ろしをするときは、平坦で安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け車止めをして下さい。使用するあゆみ板は幅・長さ・強度が十分にあり、スリップのしないものを選んで下さい。

【守らないと】

転落事故を引き起こす恐れがあります。



警告 登るときは後退、降りるときは前進でおこなう

トラックに積み込む時は後退で、降りるときは前進でおこなって下さい。

【守らないと】

バランスを崩し、転落事故を引き起こす恐れがあります。



警告 ロープでトラックに確実に固定する

トラックに乗せて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、強度の十分にあるロープでトラックに固定して下さい。

【守らないと】

荷台から目砂散布機が転落して事故を引き起こす恐れがあります。



警告 急な発進、停止、旋回やスピード出しすぎ禁止

発進・停止はゆっくりとおこなって下さい。旋回をするときは、十分スピードを落として下さい。また、凹凸地、傾斜地では、充分速度を落として下さい。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこす恐れがあります。



注意 傾斜地では、惰性運転はしない

傾斜地での走行は十分注意して行なって下さい。惰性運転などはしないで下さい。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損を起こす恐れがあります。



注意 暖機運転中は駐車ブレーキを掛ける

【守らないと】

目砂散布機が自然に動き出し、事故を引き起こす恐れがあります。

・ 作業時の注意事項



警告 機械から離れる時は平坦地に置きエンジンを止める

機械から離れるときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをして下さい。

【守らないと】

目砂散布機が動き出し、事故を起こす恐れがあります。



警告 異状な振動が出たら、直ちに点検・修理を行う

異状な振動が出たら直ちにエンジンを停止し、原因を調べて、修理して下さい。

【守らないと】

事故・ケガ・機械の故障を起こす恐れがあります。



警告 急旋回しない

急旋回しないで下さい。また旋回するときは、十分に速度を落として下さい。

【守らないと】

3輪なので、横転事故の恐れがあります。



注意 一般道走行禁止

本機は型式認定を受けておりませんので一般道路の走行はできません。

【守らないと】

道路交通法違反により罰せられる事があります。



警告 急な傾斜地では運転はしない

傾斜角度が10度以上の場所では絶対に作業を行わないで下さい。

【守らないと】

機械が転倒して負傷する恐れがあります。

2. 安全名盤の貼り付け位置

安全に作業をしていただくために安全名盤の貼り付け位置を示したものです。

安全名盤は常に汚れや破損のないように保ち、破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直して下さい。



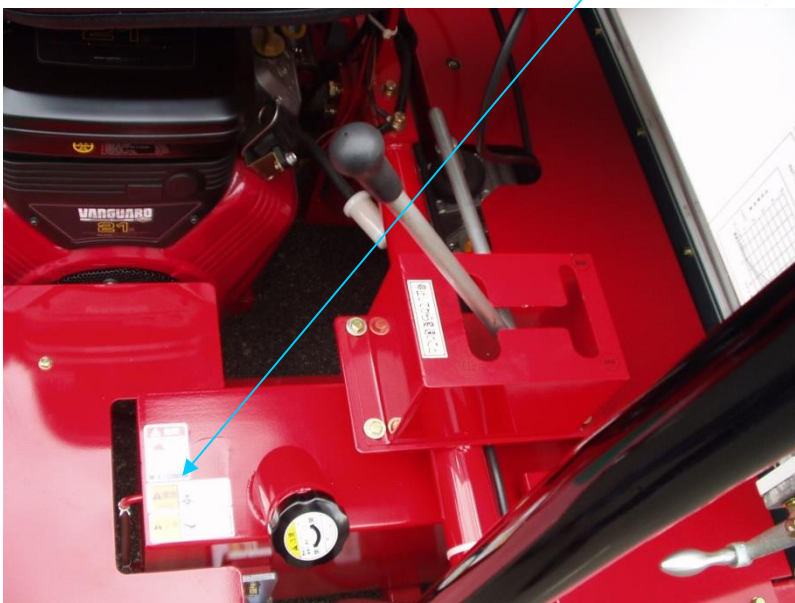
▲ 注意	
	使用前に取扱説明書をよく読んで、安全で正しい作業をしてください。
始動	●エンジン始動時は機械の近く人がいないことを確認してください。
運転	●機械の上に人を乗せないでください。運転者以外の乗車は非常に危険です。 ●傾斜地での運転は必ず低速で行ってください。 ●急傾地での等高線作業は行わないでください。傾転の危険があります。 ●作業中は機械の周りに人を近づけないでください。飛散物でケガをするおそれがあります。 ●運転席から離れる時は、必ず作業機を接地させレバー類は「中立」位置にし駐車ブレーキを掛けてキーを抜いてください。
整備	●点検・サービスを行うときはエンジンを停止し、機械の動きが完全に止まり高温部が冷めてから行ってください。 ●この機械は、一般の道路を走行することはできません。
50176206	

▲ 警告 回転部あり!	
	カバーを必ず取り付けて運転すること。

▲ 危険	
	火気 厳禁
●給油時は必ずエンジンを停止してください。 ●給油口に火を近づけると火災の危険があります。 E000040	
無鉛ガソリン	

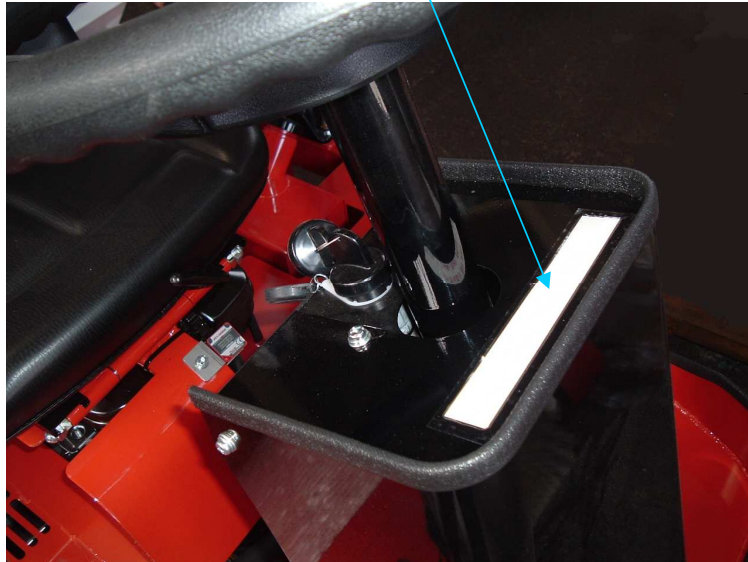
▲ 警告 排ガスに注意	
	室内や換気の悪い所での運転は人体に有害で危険です。 E000042

▲ 注意 マフラー高温注意	
	さわるとやけどをします。 E000041



警告

坂道を下る場合は必ず2速にして走行して下さい。



3. 新車の取扱

新車の使用時間50時間までの取扱が大変重要です。この時間以降の目砂散布機の寿命に大きく影響します。

(1) 最初の50時間までの取扱い

重作業、急発進、急ブレーキなどは避け、ならし運転をしましょう。無理な作業をしますと、磨耗を早めます。

(2) 最初の50時間目の手入れ

エンジンオイルを交換して下さい。また、チェーンの張り具合も点検して、調整して下さい。詳細は定期の点検・調整の項をご参照下さい。

(3) 作業する前に

アイドリング(無負荷、低速回転)で暖気運転を5分間行いましょう。

(4) 製造番号を控えて下さい。

製造番号は部品の注文などに必要ですから控えておきましょう。

4. 各装置の取扱い

4-1 運転席左側



(1) 変速レバー

(2) シャッターハンドル

(4) チョークレバー

(3) クラッチペダル

(1) 変速レバー

1速2速3速及び、後進の切り替えをします。

走行中は切り替えしないでください。変速は平坦な場所に、止まってから行ってください。

変速レバーが入りにくい時は、サイドブレーキを緩めると入りやすくなります。

警告

坂道を下る場合は必ず2速にして走行して下さい。

(2) シャッターハンドル

砂の排出量を調整します。

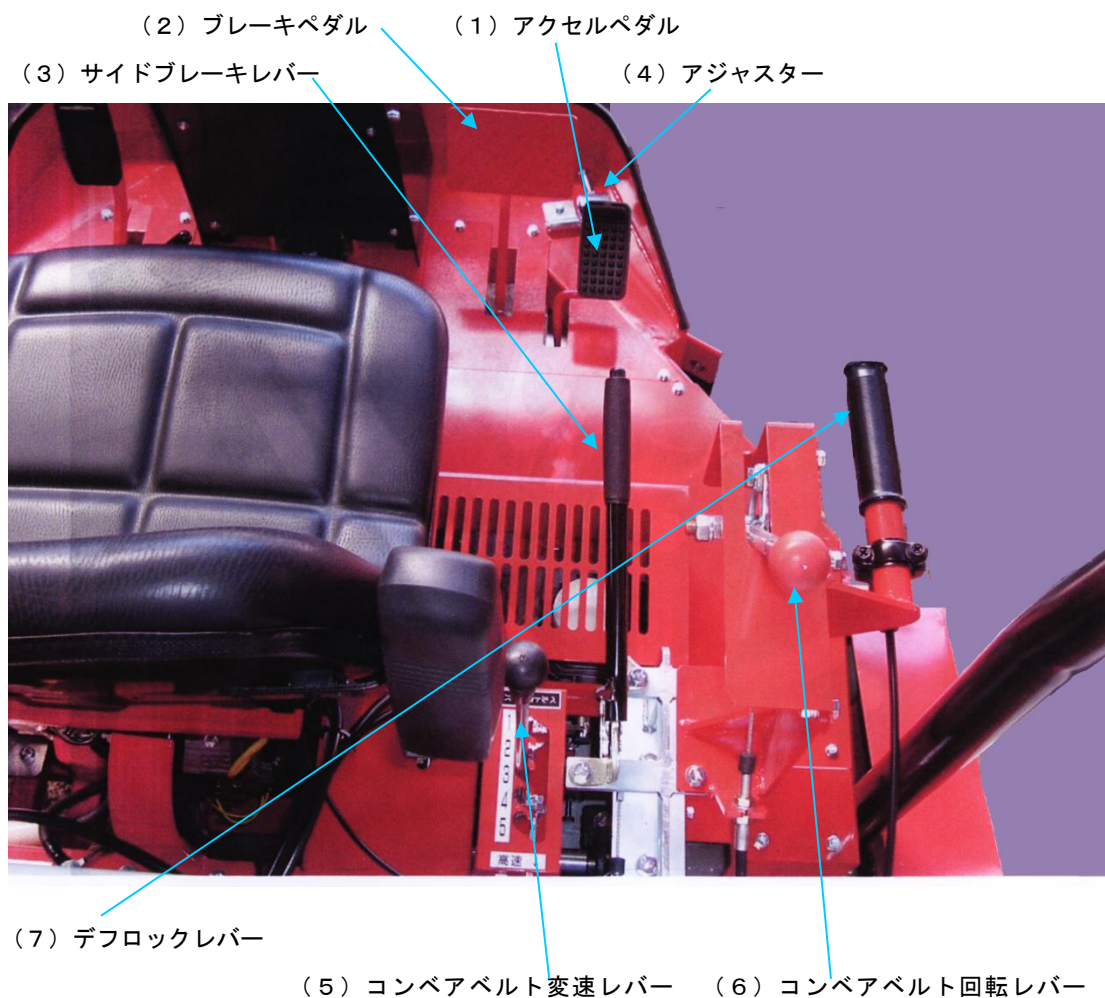
(3) クラッチペダル

変速するときに使います。

(4) チョークレバー

エンジンが冷えている時に使用します。エンジンが始動すればすぐに戻してください。

4-2 運転席右側



(1) アクセルペダル

エンジンの回転を調整します。

(2) ブレーキペダル

本機を走行中減速する時、及び停止する時に使用します。

(3) サイドブレーキレバー

本機を駐車しておく時に使用します。駐車は必ず平坦な場所で行ってください。

(4) アジャスター

アクセルペダルの当たりです。希望のスピードにアジャストして使用します。

(5) コンベアベルト変速レバー

コンベアベルトの回転速度を1速～5速まで変更できます。

(6) コンベアベルト回転レバー

コンベアベルトの回転・停止する時に使用します。

(7) デフロックレバー

片側のローラーが空転する時など、緊急脱出用として使用します。

4-3 ハンドル部



(1) キースイッチ

(1) キースイッチ

1 段目 OFFの状態 2 段目 ONの状態 3 段目 セルモーターONの状態



シャッターシリンダー

フューエルストレーナ

フューエルタンク (容量 15L)

5. 始業点検

5-1 作業前の点検

警告

- ・ 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないで下さい。
- ・ エンジン回転中や、エンジンが熱い時は絶対に注油、給油をしないで下さい。
- ・ 燃料を補給した時は、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいに拭き取って下さい。
- ・ バッテリー、配線、マフラー及びエンジン周辺部の枯れ草、ゴミや燃料の付着をきれいに取り除いて下さい。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

警告

- ・ 点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で車止めをした上で行って下さい。

注意

- ・ 点検整備の修理をするときは、必ずエンジンを停止して下さい。守らないと、機械に巻き込まれて傷害事故を起こす恐れがあります。
- ・ 点検整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行って下さい。守らないと、やけどを負う恐れがあります。
- ・ 点検整備などで取り外したカバー類は必ず取り付けて下さい。守らないと、機械に巻き込まれて傷害事故を起こす恐れがあります。

安全で快適な作業を行うには、本機を使用する人が1日1回、作業前の点検を行うようにして下さい。
異状箇所は直ちに整備し、作業終了後も異状がないかをチェックして下さい。

5-2 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、作業に支障がないか点検して下さい。

5-3 本機のまわりの点検

- (1) 各部の変形、損傷、汚れ、油漏れ
- (2) ゴムローラーの亀裂、損傷具合
ゴムローラーに損傷や亀裂がないか、極端にすり減っている箇所はないかを点検して下さい。
- (3) 各部のボルト、ナットのゆるみ
- (4) 車輪取付けナットのゆるみ
- (5) Vベルトの損傷

5-4 エンジンオイルの点検

ディップスティックでオイル量と汚れを点検して下さい。もし不具合があれば注油、交換をして下さい。



エアクリナー

5-5 エアクリナーの点検

エアクリナーの蓋を開けて、50時間毎に点検をして下さい。汚れていたら、清掃、交換をして下さい。

5-6 バッテリーの点検

目砂散布機のバッテリーは本体右にあります。バッテリーの型式は(40B19R)相当品です。

5-7 燃料の点検

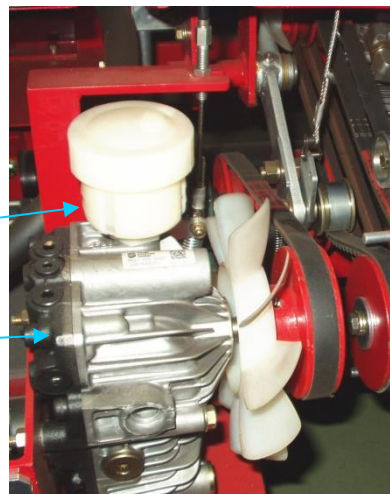
燃料タンクに透明パイプが取付けてありますので、不足している時はガソリンを入れて下さい。

5-8 BDU油圧可変装置の点検

年に1回程度、BDU油圧可変装置のオイル交換をして下さい。

(SAE10W-30 エンジンオイル)

オイルタンク
(中央の線まで給油)
BDU油圧装置



6. 作業要領

6-1 運転要領



- ・ 乗車する前に必ず走行車両に付属してある取扱説明書をよく読んでから運転して下さい。守らないと故障の原因、または傷害事故を引き起こす恐れがあります。
- ・ エンジン始動時は、必ず運転席に座ってレバーの位置の確認、そして周囲の安全を確認して下さい。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。
- ・ 閉め切った室内ではエンジンを始動しないで下さい。エンジンは風通しの良い屋外で始動して下さい。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をして下さい。守らないと排ガスによる中毒を起こし、死亡事故を起こす恐れがあります。
- ・ 傾斜地では直角方向に登り降りして下さい。(等高線上に走行しないで下さい)また、急発進や急停止は避けましょう。どうしても傾斜地で方向転換しなければならない時は、低速で行って下さい。守らないと車体が転倒し傷害事故となる恐れがあります。
- ・ 旋回は十分速度を落として行って下さい。
- ・ 移動時はホッパーに砂を積んだ状態で傾斜地を走行しないで下さい。守らないと車体が転倒し傷害事故となる恐れがあります。



- ・ 暖気運転中は駐車ブレーキをかけて下さい。守らないと何らかの原因で車輛が走り出し、事故を起こす恐れがあります。
- ・ 夜間での作業は行わないで下さい。守らないと、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

6-2 一般的な作業手順

- (1) 周囲の安全を確認後、エンジン始動。
- (2) 目的場所まで移動し、砂をホッパーに入れる。
- (3) シャッター開度を任意の位置に調整、コンベアベルトの砂搬送速度を決定する。
- (4) 走行開始、コンベアベルト回転レバーを入れて、コンベアベルトを回転させて下さい。
- (5) 散布作業開始。
- (6) 終了はコンベアベルト回転レバーを切って、コンベアベルトを停止して下さい。

作業終了後は、砂・ホコリなどを十分に取り除き、7. 定期の点検を参照し点検を行ってから、屋内に保管して下さい。特にコンベアベルト内側や、コンベアベルト受け板周辺に溜まった砂は、エアで吹き飛ばして下さい。

6-3 撒布量の調整

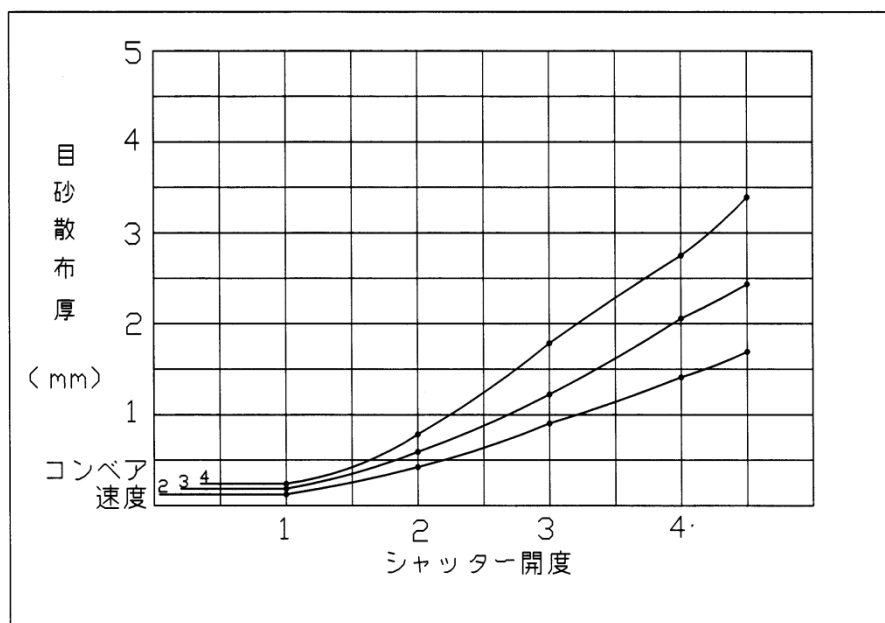
撒布量の調整は、コンベアの回転速度、車両速度、シャッターの開閉で調整出来ます。

撒布パターン表が下記にありますので、撒布量の目安として撒布量を調整してください。

MWX-400HV目土撒布厚 (mm) (車速4km/h
E/G回転2500rpm)

コンベア 速度	1	0.08	0.22	0.42	0.76	0.81
	2	0.13	0.42	0.87	1.46	1.68
	3	0.20	0.64	1.31	2.18	2.45
	4	0.26	0.86	1.81	2.84	3.42
	5	0.30	1.16	2.37	3.41	4.06
		1	2	3	4	4.5
		シャッター開度				

MWX-400HV 撒布パターン (車速4km/h
E/G回転2500rpm)



7. 定期の点検・調整

警告

- ・ 点検・整備は、交通の危険がなく本機が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、ローラーに車止めをして行って下さい。守らないと、転倒などの事故を起こす恐れがあります。

注意

- ・ 1年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保守を行って下さい。守らないと整備不良による事故や機械の故障をまねく恐れがあります。
- ・ 点検、整備、修理をするときは、必ずエンジンを停止して下さい。
- ・ 点検、整備等で取り外したカバー類は必ず取り付けて下さい。守らないと機械に巻き込まれて傷害事故を起こす恐れがあります。

7-1 エンジンオイルの点検・交換

危険

- ・ エンジン回転中や、エンジンが熱いときは絶対に注油しないで下さい。守らないと火災や火傷を起こす恐れがあります。

注意

- ・ エンジン停止直後のオイル交換はしないで下さい。守らないと、火傷をする恐れがあります。

(1) エンジンオイルの交換

エンジンオイルは最初の50時間目、以後は100時間毎にオイルを交換して下さい。

- 1). 排油栓を外し、古いオイルを排出します。
- 2). 完全に排出し終わってから、排油栓を閉めます。
- 3). 新しいオイルをエンジンの上部にある注入口から入れます。

オイル量 (フィルター付 1.4L) (オイル交換のみ 1.1L) 冬季 10W-30 夏季 10W-20

- 4). ディップスティック (検油棒) を抜き取り F U L L の少し下 (10 mm 程度) までであることを確認して下さい。

(2) エンジンオイルの点検

5-4 のエンジンオイルの点検とブリグス & ストラトンエンジンの取扱説明書をお読み下さい。

7-2 バッテリーの点検

危険

- ・ バッテリーの点検時・充電時は火気厳禁です。守らないと、引火爆発し火傷を負う恐れがあります。
- ・ バッテリー液を身体や服につけないようにして下さい。付着したときは、すぐに水で洗い流して下さい。守らないと、服が破れたり火傷を負う恐れがあります。

注意

- ・ バッテリーの取付は、+側を先に取り付け、取り外す時は一側から取り外して下さい。守らないと、ショートして火傷を負う恐れがあります。

バッテリーの点検、その他詳細についてはB & Sエンジンの取扱説明書をお読み下さい。

7-3 燃料フィルターの清掃・交換

危険

- ・ エンジン回転中や、エンジンが熱いときは絶対に清掃・交換しないで下さい。守らないと火災や火傷を起こす恐れがあります。

詳細については、B & Sエンジンの取扱説明書をお読み下さい。

7-4 エアクリーナーの清掃・交換

詳細については、B & Sエンジンの取扱説明書をお読み下さい。

7-5 パイプ類の点検

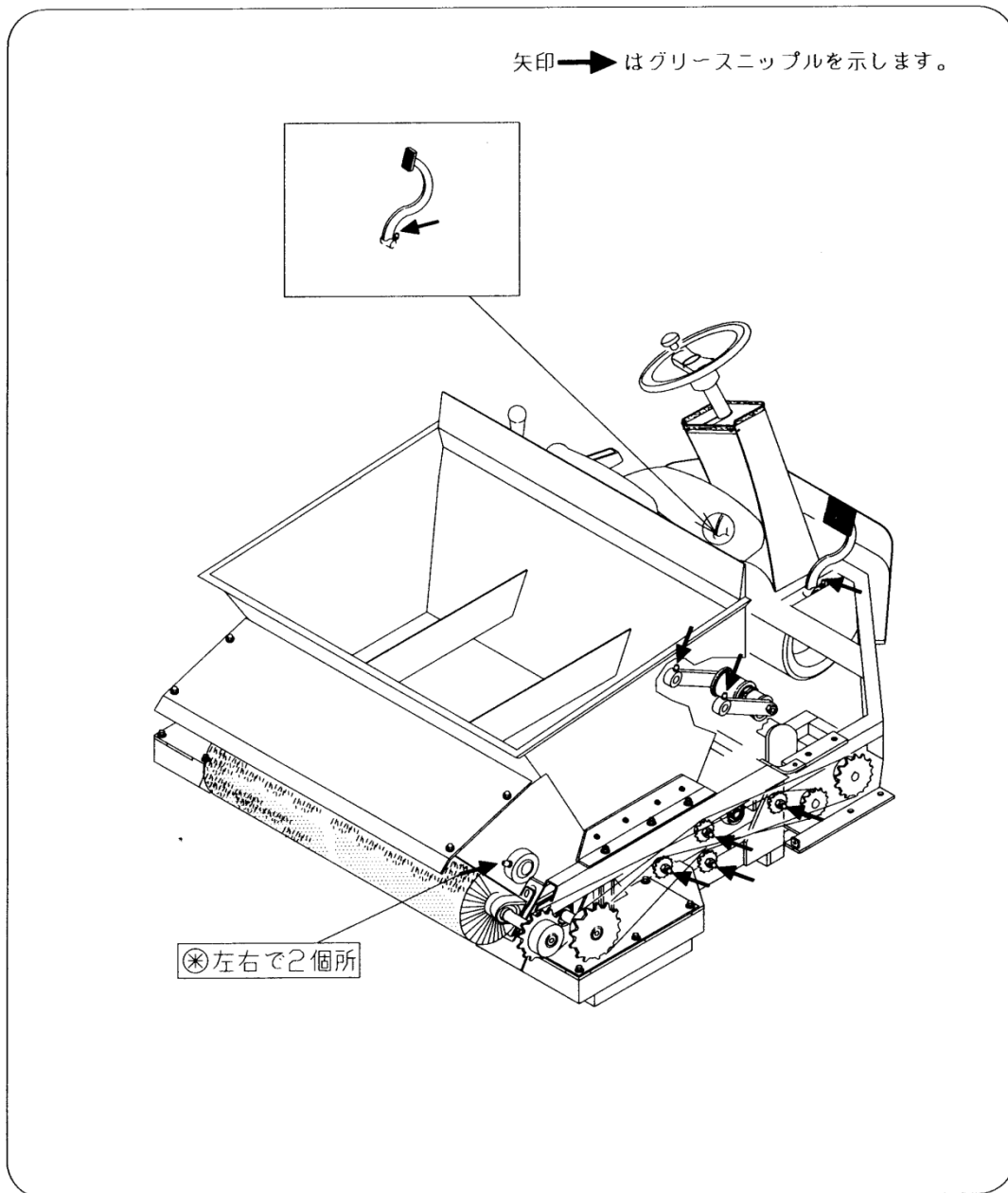
危険

- ・ 燃料パイプが破損していると、燃料漏れをおこしますので必ず点検して下さい。守らないと、火災を起こす恐れがあります。

7-6 グリース補給

次の箇所に作業時間50時間ごとにグリースを補給して下さい。

- ・チェーン、スプロケット
- ・各部のベアリングユニット
- ・下図のグリース補給箇所



7-7 電気配線の点検



- ・ 電気配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部の緩みがないかを毎日作業前に点検して下さい。

電気配線コードが、他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または接触部の緩みがないかを調べて下さい。傷んでいる場合は、早めに交換・修理して下さい。

7-8 長期格納時の点検修理



- ・ 燃料を抜く時は、エンジンが十分に冷えきってから行って下さい。守らないと、火災を起こす恐れがあります。



- ・ 格納する時は、バッテリーを外し、キーを抜き取り保管して下さい。守らないと、事故をおこす恐れがあります。本機を長時間使用しない場合、必ず下記点検、整備を行って下さい。

(1) 洗浄

泥や芝、油汚れなどをきれいに落として下さい。

(2) オイル交換

エンジンオイルを交換して下さい。交換後エンジンをかけ、5分間程度ならし運転をして、各部を動かして下さい。

(3) 給油

グリースアップ部など各可動部にグリースを給油して下さい。

(4) 燃料系統

燃料フィルターを洗浄して下さい。燃料タンクとプレフィルター内のガソリンは抜き取って下さい。

(5) タイヤの空気圧

標準よりやや高めに設定し、湿気から守るために板の上に載せて下さい。

(7) バッテリー

機体から取り外し、充電してから風通しの良い屋内に保管して下さい。保管中でもわずかですが、自己放電しますので1～2ヶ月ごとに補充電して下さい。

7-9 定期点検一覧表

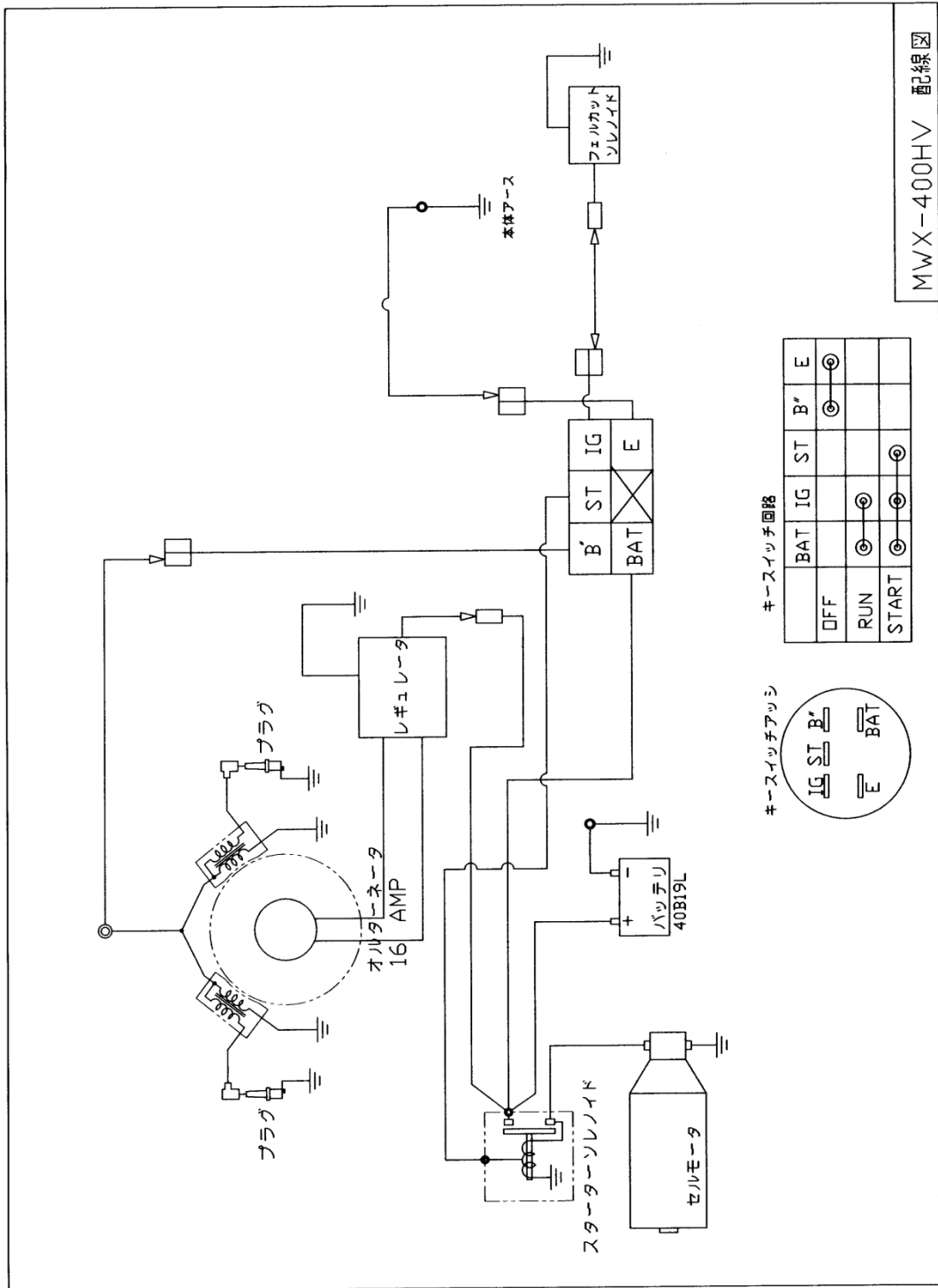
項目	使用時間													その後の整備
	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	
エンジンオイル	◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	100 時間ごと
エアクリナー-エレメント	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
燃料フィルター		△		△		△		△		△		△		
燃料パイク		△		△		△		△		△		△		
バッテリー液	始業時ごとに点検													
各部グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
油圧オイル						△						○		
油圧ストレーナー	1 回目は 50 時間 2 回目以降は 300 時間毎交換													
油圧配線	始業時ごとに点検													
電気配線	始業時ごとに点検													

◎ 交換 ○ 注油 △ 点検

7-10 仕様

型式	MWX-400HV		
機体寸法	全長	mm	2.110
	全幅	mm	1.530
	全高	mm	1.320 (ハンドル)
重量	kg		640
エンジン	型式		バンガード 385447
	出力	kw (ps)	15.7 (21)/3600rpm
ホッパー容量	(m ³)		0.4
散布幅	mm		1.180
砂散布装置			ラフトップコンベアベルト
変速装置			前進 3 段後進 1 段
走行速度	(km/h)		最高速度 10

7-1 1 電気配線図



8. ディスクブレーキの取扱

8-1 ブレーキ取付ボルトの締付トルク

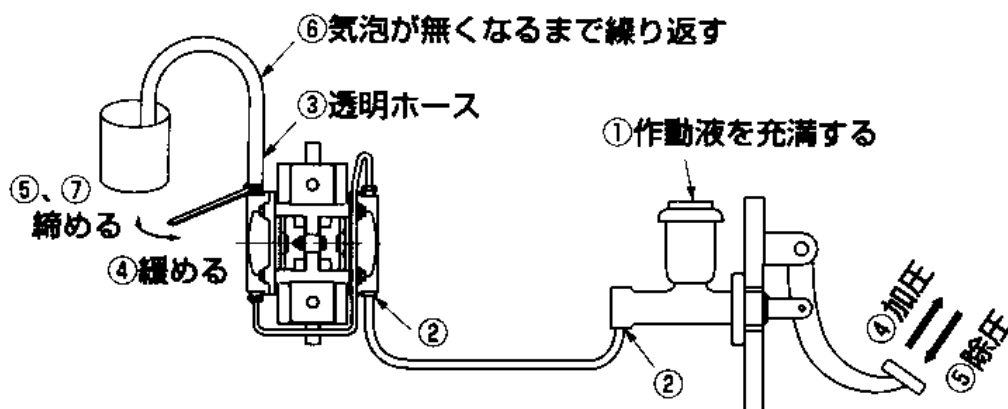
ブレーキ型式	サイズ	推奨締付トルク
DB-2008	M12	75~85N.m

8-2 ブレーキ作動液

刻印表示	指定作動液
B (DB-2008)	ブレーキ液 : JIS K2233 3種 (DOT 3 相当品)

8-3 ブレーキ及び配管内のエア抜き

* エア抜き作業は次の要領で行って下さい。



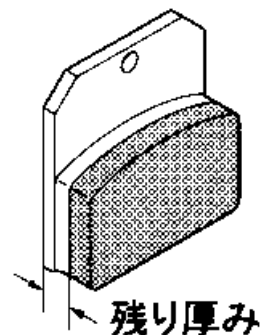
- ① マスタシリンダ内のリザーブタンクに作動液を充滿する。
(エア抜き作業中も補充のこと。)
- ② 配管の接続部が締まっていることを確認する。
- ③ 透明ホースをブリードスクリュ先端に接続し、他端を容器で受ける。
- ④ マスタシリンダのプッシュロッドを押しながら (加圧状態) ブリードスクリュを緩め、作動液を出す。
- ⑤ ブリードスクリュを締めてからプッシュロッドを戻す (除圧)。
- ⑥ ブリードスクリュから出てくる作動液中に気泡が無くなるまで、上記④、⑤の作業を繰り返す。
- ⑦ 作動液中に気泡が無くなればブリードスクリュを 7~12N・m で締め付ける。
- ⑧ 使用最大油圧 (4 Mpa) を 1 分間加圧し、ブレーキ本体、及び配管部に漏れの無いことを確認する。

8-4 使用油圧（常用最大）

使用油圧（常用最大）は 4 Mpa (40Kgf/cm²) です。
これを超えると破損することがありますので、遵守して下さい。

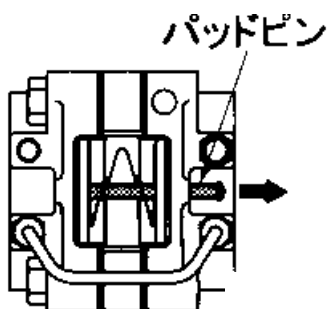
8-5 パッドの使用限度

パッドの使用限度を超えると、
ブレーキが効かなくなります。
(残り厚み 5mm以上で交換して下さい。)

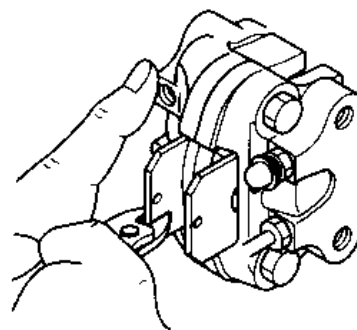


8-6 パッド交換要領

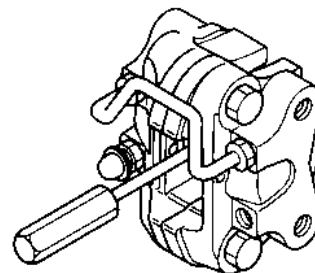
- ① パッドを外す
スナップピンを外す。
パッドピンを外す。



- ② 摩耗したパッドを引き抜く
手またはプライヤ等使い
パッドを引き抜く。



- ③ ピストンを押し戻す
平板、又はドライバを使う。
(必ずピストンの中心を押しようにする。)



- ④ 新品パッドを組み込む
パッドピンを取り付ける。
スナップピンを取り付ける。

- ⑤ 作動油の補充とエア抜き
ブリードスクリュを緩めた場合はエア抜きを行い、
作動油を補充する。

8-7 ロータ表面温度



警告 ロータ表面温度は 200° C 以下で使用のこと。

非常時でも 300° C 以下を目途にご使用下さい。



危険 ロータ表面に油が付着しないこと。

付着した場合はアルコールで拭き取って下さい。



注意 使用直後のロータやブレーキに触れない。

熱で火傷をすることがあります。